

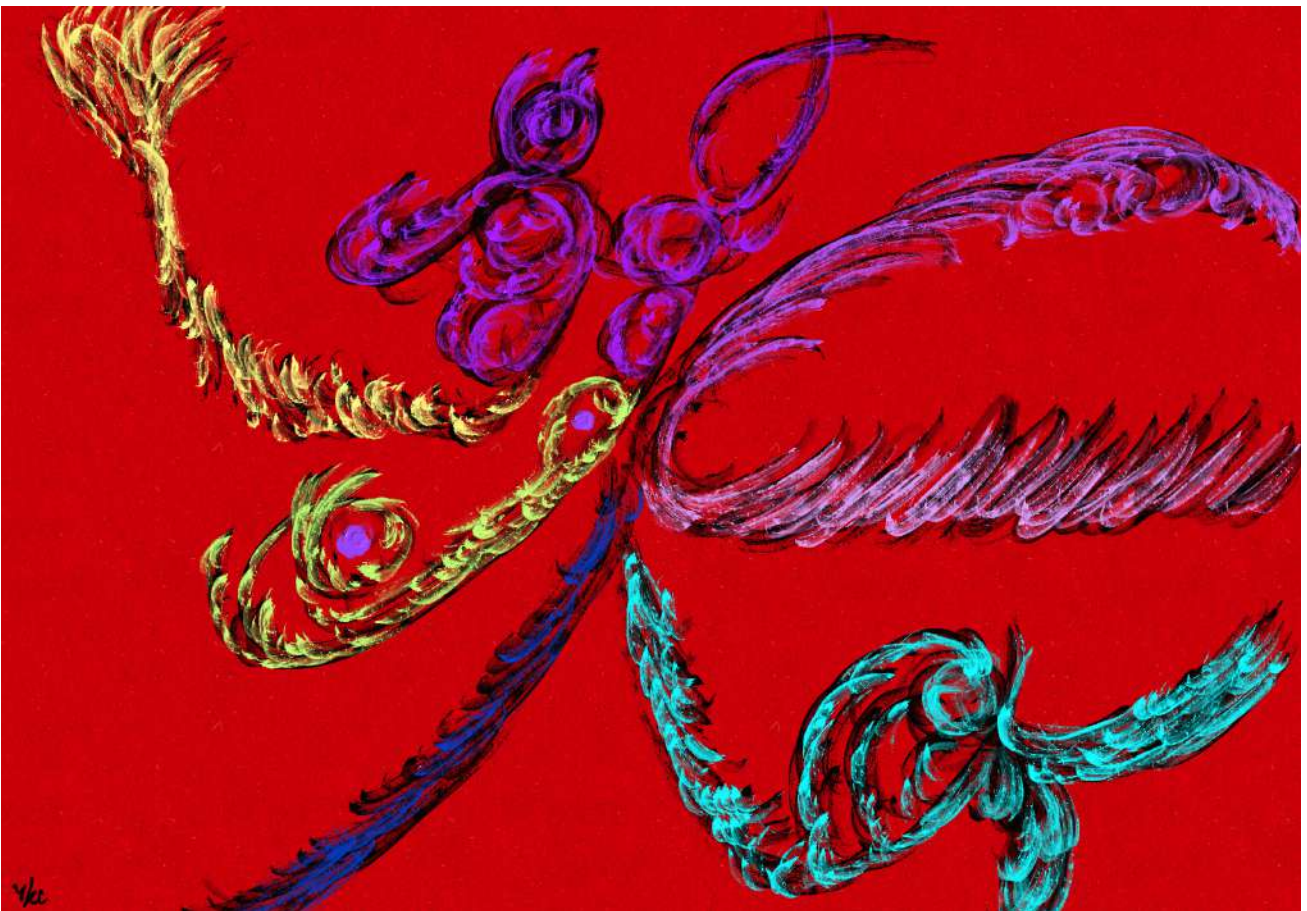
---

# 発達理論の学び舎

Back Number: Vol 311

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」

---



No.1316 明け方の存在者\_Existence at Dawn

---

## 目次

- 6201. 仮初め性と永遠性/全存在・全感覚を通じて創造活動に向けて
- 6202. 小鳥たちのメッセージ
- 6203. 夢と現実の連動/詩とダンスと創作活動
- 6204. 生活環境と内的感覚/身体感覚・身体意識の拡張
- 6205. 今朝方の夢
- 6206. 無数の短詩を作ること/これからの生活
- 6207. 本日の読書の予定/今朝方の夢
- 6208. ベルナルド・リーベフートの発達モデルと非合理的な成長希求
- 6209. 本日の読書の予定/今朝方の夢
- 6210. 作曲実践とダンスの組み合わせ
- 6211. シャドーワーク・瞑想実践としての創作活動/フローニンゲン内での引っ越しについて
- 6212. 作曲に関する顕教と密教
- 6213. 今朝方の夢
- 6214. 創造と居場所/「色々」と多様性/畏敬の念とゴールデンシャドー
- 6215. シュタイナーの貨幣論/今朝方の夢
- 6216. 身体感覚と身体意識の拡張に向けて:シュタイナーとゲーテの色彩論
- 6217. 学習と実践の螺旋プロセス
- 6218. ヘレナ・ブラヴァツキーの影響と霊的知覚能力
- 6219. 今朝方の夢
- 6220. 身体に宿る叡智の声に耳を傾けて

時刻は午前8時を迎えようとしている。今、なんと美しい虹が出ている！しかも2つも同時にだ。

書斎の開放的な窓を通じて、今私の真っ正面にとても美しく輝く虹が見えている。2つの虹が向かう先、そしてそれらがつかないでいるもの。それら全てに特別な意味があるように思えてしまう。

ちょうど昨日、ハーグからフローニンゲンに遊びに来た友人とオーロラについて話をしていた。そして、満天の星空を静かに眺めながら過ごす生活についても話をしていたように思う。

今私は、虹をゆっくりと眺めるこの瞬間を味わっている。あっ、たった今、虹がゆっくりと消えていった。水分を含んだ雲が移動し、晴れ間が広がることによって虹が消えていった。虹の輝きは儂いものかもしれないが、その儂さに永遠が宿っていることに気づく。今このようにして虹について書いた文章が永遠性を物語っている。

仮初め性と永遠性は絶えず表裏一体のものであると理解しなければならない。それらは2つで1つなのだ。私たち1人1人の人間の生涯というものも実はそういうものなのだろう。それは仮初めなのだが、永遠なものである。前者について気づけたとしても、後者の本当の意味を全存在を通じて理解することは難しく、それを体現しながら生きるのは確かに難しいかもしれない。しかしながら、そこに到達しない限りは、開放的かつ解放的な生はあり得ないのだろう。

今朝方の夢の世界は随分と落ち着いていたように思う。実際のところは確かに夢を見ていたが、あまり覚えていない。今自分にとってとても大切な人が夢の中に現れ、穏やかな気持ちでその人と何かについてゆっくり対話していたことだけは覚えている。場所は欧州のどこかの国の自然豊かな場所だった。そこは自然の中ではなく街なのだが、その街が自然と共存・共生していたことを覚えている。

昨日の友人との対話を受けて、ダンスを再び生活の中に取り入れていく。学術的な探究に関しては引き続き多岐に渡る領域の探究を進めていきながら、実践としては音楽・絵画・ダンスを核に据えていく。もう全存在をかけて、全感覚を用いて表現をしたいのだ。

---

昨日の友人との対話の中でも出て来たのだが、ダンスがそのまま音楽や絵画となるようなテクノロジーが生まれたら本当に面白いだろう。今はまだそうしたテクノロジーが存在しない。だが、日々の生活の中でダンスの実践をしている最中には、それが作曲行為であり、絵画の創作行為でもあるということを実感しておきたい。また逆も然りである。つまり、作曲実践をしている最中にはそれが内的感覚のダンスだということを感じ、絵画を描いている最中にはそれもまたダンスであると感じるようにする。

今日からの創作活動においては、自分が知覚する全てを音と絵を通じて表現していくことをより意識していこう。そしてそれを意識するだけではなく、実際の形にしていく。兎にも角にも創作体験を積み重ねていき、既存の型では表現しきれないものに出会った都度、新たな型を能動的に取り入れていくようにする。外から何かを取り入れることを優先するのではなく、まずは内側から外側に向かって形にする実践をすることが優先であり、そこから必然性に導かれる形で新たな型を学んでいく。

次回の書籍の一括注文はおそらく日本からオランダに戻って来てからになるだろうか、その際にはユーリズミーの書籍を何冊か購入しよう。上記で述べたことと矛盾しないように、まずは日々踊ることである。自分なりの踊りをさらに深めていくための友として幾つかの書籍を手元に置いておきたい。まさに昨日そばで対話をしてくれた友人のように、対話をしてくれる書物がそばにいて欲しい。フ  
ローニンゲン:2020/9/6(日)08:07

## 6202. 小鳥たちのメッセージ

時刻は午前8時半を迎えた。日曜日の穏やかなフローニンゲン。天気予報では今日は午後から小雨が降るようだが、今は雲がほとんどない見事な空が広がっている。

小鳥たちの声がそよ風に乗ってたなびいている。彼らは自由にくつろぎ、自由に歌い、自由に空を羽ばたいている。

私たちはどうだろう？ 私たちはどうなんだ？ 自由にくつろぎ、自由に歌い、自由に空を羽ばたくことができているだろうか？

---

固有の生命を持った人間として生きることを放棄しないこと、そして固有の生命の躍動を通じて生き続けること。さらには、そのように生きることを妨げる時代の精神風土と仕組みがあるのであれば、それらに積極的に働きかけること。今の目の前に広がっている世界と今この瞬間の内的感覚は、それらの大切さを伝えている。

昨日は、まさか友人と8時間半も話をするようになるとは思っていなかった。正午を少し迎えたところでフローニンゲン駅に到着した友人と落ち合い、そこからForum Groningenにまず向かった。事前に地図を確認した時には、もう迷いようがない場所だと思っていたのだが、この新たにできたフローニンゲンのランドマークは、歴史的な建造物とモダンな建造物をうまく調和させようとするオランダ人の思想によるものなのか、街の景観を損ねるような形で目立った場所になく、すでに街に溶け込んでいるかのようであり、見つけるのに一苦労した。それは高い建物ですぐに見つかると思っていたのだが、その姿を遠くから確認することでさえ苦労したことはおかしかった。この新たにできた施設についてはまたどこかの機会で書き留めよう。

文化的な資産として、この施設はフローニンゲンの市民にとってこれから大切な存在として生き続けるだろう。この施設を見学した後に、街の中心部のオーガニックレストランに向かった。そこはレストランと言えるほど大きなものではなく、カフェと述べた方が正確かもしれない。ここで食べたグリーンボウルはとてもヘルシーで美味であった。特に、焼いたブロッコリーの味には思わず唸ってしまい、また友人が来た時にはここで食事を摂りたい。

その後、行きつけのオーガニックカフェに行き、コーヒーを飲みながら友人と話をした。カフェが閉まる時間は午後5時半と早かったので、そこからはフローニンゲン大学図書館のカフェに行ったのだが、そこもまたすぐに閉まってしまったので、結局最後はゆっくり座って話ができる場所として、フローニンゲン中央駅を選び、そこで夜遅くまで話をしていた。

実は今日もまた友人と隣町のルーワーデンで午後から一緒に行動することになっていたのだが、友人に独りでルーワーデン巡りをしてもらうことにした。私はルーワーデンの美術館だけをゆっくりと見たいと思っていた、それだけに友人を付き合わせるのには申し訳ないと思ったのと、ちょうど明日に「一瞬一生の会」の説明会のオンラインイベントがあるので、それに向けて諸々の準備と状態を整え



---

たいと思ったからである。友人がルーワーデンで何を見て、何を感じ、何を考えたのか。友人がそれらについて日記を書くことを楽しみに待ちたいと思う。フローニンゲン:2020/9/6(日)08:51

### 6203. 夢と現実の連動/詩とダンスと創作活動

時刻は午後7時を迎えた。ゆっくりと日曜日が終わりに近づいている。

昨日は友人がハーグからフローニンゲンにやって来て、昼食後から夜まで随分と話していたこともあって、気づけば昨日は結局夕食を食べなかった。夕食を忘れるぐらいに有意義な時間が過ぎていたのだと思う。夕食を食べなかったことによって、結果として胃腸を休めるような形になったことは好ましい。

今日の振り返りをすると、早朝にいつものようにバランスボールに乗って背中をほぐしている時に、両手にビリビリとするエネルギーの流れを感じた。それはかなり強いエネルギーの流れであり、身体エネルギーがまた別の次元に向かっていることを感じた。

昨日の友人との対話の中で、ダンスの話題が挙がり、そのテーマに対して私は強い関心を示していた。そう言えば、ちょうど2日前の夢の中で、ボルダリングと新体操のようなダンスを混ぜた競技を眺めていたシーンがあったのを思い出した。それはひょっとすると、ダンスへの目覚めと導きなのではないかと思った。また不思議なことに、ちょうど昨日見た夢の中で巨大なヒグマを見ており、今朝方、現在投資中のマーケットの相場の様子を確認したところ、相場が大きなベア相場になっていたことに驚いた。相場がとても激しく動いていたのである。

立て続けに夢が現実と連動していることに驚く。自分の無意識は一体どうなっているのだろうか。夢日記の執筆や創作活動を継続することによって、ゆっくりとだが確実に、自分の無意識が開発されていることに気づく。

昨日の友人の対話を通じて、その他にも詩への関心が改めて芽生えたことがある。詩に対しても、これまで何度も関心を持ってきたように思う。これまでは自分で詩を書くのではなく、詩を読むことをしてきた。だが今回は詩を書く方にも関心がある。詩を書くにはどうしたらいいのだろうかと考えてい

---

た時に、そう言えば父が以前詩を書いていたことを思い出し、改めてそれを読んでみようかと思った。

自分が詩を書くことをイメージできていないので、そうであれば詩を独立した形で書くというよりも、詩のような音楽を作り、詩のような絵を描き、詩のような日記を書くということ、つまり、詩的要素が滲み出ているような形で創作活動をしていくようにすればいいのではないかと思った。

今朝方の日記で書き留めていたように、まさにダンスと絡めてそれらの創作活動をしていこうと思っていたのと同じである。そうであれば、詩のようなダンス、ダンスのような詩の創作も実践できるはずだ。ダンスと絡めてやはり音楽について考えてしまう。コミュニケーション的な動きとしての音楽的リズム。リズムと社会性。そういったテーマについて考えを深めていき、それを実践に活かしていこう。さらに、自分の身体の様々なリズム、そして社会や自然の様々なリズムに意識を向けていくことによってリズム感覚を養い、それを創作につなげていく。明日からの日々がまた楽しみである。フローニンゲン:2020/9/6(日)19:29

#### 6204. 生活環境と内的感覚/身体感覚・身体意識の拡張

時刻は午前7時を迎えた。今、辺りは明るくなっており、耳を澄ますと、小鳥たちの鳴き声が聞こえてくる。

今この瞬間には雲があるが、今日は雨が降らないとのことである。現在の気温は9度であり、10度を下回ると本当に肌寒い。オランダはめっきり秋らしくなった。少し前までであれば、フローニンゲンとヘルシンキの気温はほとんど同じだったが、ここ最近はまだヘルシンキの方がさらに寒くなっているようだった。ここからゆっくりと両都市の気温の差が開いていくかと思う。

早いもので、来月の今頃は日本へ一時帰国する前の週となる。ハーグの友人とフローニンゲンで会う約束をしてからの1ヶ月があつという間だったように、ここからの1ヶ月もまたあつという間かもしれない。

取り巻く環境が内的感覚に与える影響について少しばかり考えていた。迸るような力強い色彩に溢れたゴーギャンの絵のようなものを冬の北欧で描くことは想像できない。どのような場所で生活をす

---

るかは、内側の色や音に大きな影響を与える。私たちが環境から絶えずフィードバックを受け、環境と相互作用しながら生きている生き物であると考えればそれは当然かもしれないが、改めて取り巻く環境の力について考えていた。来月日本に一時帰国している最中には、オランダでは生まれない色や音が自分の内側から湧き上がってくるだろう。

今回もまたいくつかの県に滞在するため、滞在先で生み出される絵や音も必然的に異なってくるはずだ。環境との相互作用とそこから生み出される絵や音を楽しみにしている。身体感覚や身体意識の拡張について。絵を描いている時にも、作曲をしている時にも、固有の身体感覚と身体意識がそこに発動しているのだが、絵を描いたり、作曲をし続けていると、それが拡張されていき、アクセスできるものも、汲み取れるものも変わっていつていることに気づく。

能力や知性の発達の本幹には、身体感覚と身体意識の拡張があるということを体験を通じて理解する。身体感覚を日々研ぎ澄ませていき、緩やかに身体意識を拡張させていこう。そのための生活習慣と種々の実践にこれからも気を付けていく。

年末か年明けぐらいに集中的な読書が落ち着いて来たら、朝にも写譜実践をし、そこから1曲作るような流れにしてもいいかもしれない。その際にはバッハの曲を写譜しよう。ここ最近では、写譜がてら原型モデルを作る時にはスクリャービンとシベリウスを参考にしており、バッハの曲から少し離れていた。読書が落ち着いたら、再びとにかく曲を作りながらにして作曲に伴う身体感覚と身体意識を開発していく。「将来の将来 (future future)」という果てしなき未知性を含んだものに向かって日々ゆっくりと歩いていこう。フローニンゲン:2020/9/7(月)07:21

## 6205. 今朝方の夢

時刻は午前7時半を迎えた。寒さにより、体内のミトコンドリアが活性化しているような気さえする今日この頃である。

今日はまだ夢について振り返っていなかったなので、夢について振り返り、いつものように創作活動と読書に取り掛かろうと思う。今日はちょうど正午から、「一瞬一生の会」の第3期に向けたオンライン説明会がある。それまでは自分の取り組みを集中して続けていく。



---

夢の中で私は、とても立派なホテルの中にいた。そこは宿泊施設だけではなく、映画館などの娯楽施設も兼ねていた。ホテルのロビーのような場所で、小中学校時代の友人 (FF) と話をしていた。より具体的には、私は彼に数学と英語を教えていた。

しばらくすると、どこからともなく大柄で少し太っているボディーガードのような人がやって来た。説明が難しいのだが、その男性は日本人のようであり、外国人のようであった。言葉は日本語を話していたのだが、私はその他の部分に外人性を感じていた。その男性が私たちに侮辱するような言葉を述べたので、私は自分の攻撃性を発揮し、その男性を殴打した。男性は顔を歪めながら地面に倒れ、そこから私は「山歩き」と高らかに宣言して、倒れたその男性の頭の上に乗れ、背中の上を歩いて行った。そして最後にはバク宙をして、着地の足がボディーガードの頭に落ちるようにした。そこで1度目を覚ました。

ベッドの上で目覚めた自分も攻撃性を発揮していたようであり、近くにあったクッションを何度も殴っていたようだった。そこから再び夢の世界に戻ってみると、舞台は引き続き同じホテルだった。ホテルのセミナールームで、15人ぐらいの人が集まり、会議をすることになった。そのメンバーとして私も選ばれていた。どうやら、その中から高等裁判官を選出することが目的になっているらしかった。メンバーの顔ぶれをみると、この中に高等裁判官を務めるのにふさわしい人間がいるのかと少々疑問に思った。

すると、若いCAのような女性が自分の言語能力について話し始めたが、彼女には高等裁判官の責務を果たすことはできないだろうと思い、彼女もまたそれを自覚しているようだった。そのようなことを考えながら再度部屋全体を見渡すと、何か自分が裁判官に選出されそうな雰囲気が漂っていた。その責務を果たすことは嫌ではなかったが、他にやりたいことがたくさんあるので、私はその場を去ることにした。

部屋を出ると、そこは6階のようであり、そのフロアの映画館の看板が見えた。ホテルの中にある映画館とは思えないほど立派な映画館だった。特に私は観たい映画がなかったので、2階に戻ろうとしてエレベーターに乗ると、以前協働していたある人材開発会社の女性の方に遭遇した。その方とそこで立ち話をし、隣にいたその方の部下の男性が、今度一緒に協働したいと述べた。そこで女性の方が私に、今どれだけ忙しいかを尋ねて来た。より具体的に、毎週火曜日にミーティングをして

---

いくのはどうかと提案されたが、私はそれを断った。その協働は自分がやりたいと思うことではなく、もっと大切にしたい取り組みが多々あるのだということを思いながら2人と別れた。フローニンゲン：  
2020/9/7(月)08:01

### 6206. 無数の短詩を作ること/これからの生活

時刻は午後7時半を迎えた。今、穏やかな夕日が西の空に浮かんでいる。夕日が沈むまでにもう少し時間があるので、この優しい輝きをゆっくりと味わおう。

今日は正午から、「一瞬一生の会」の第3期に向けたオンライン説明会を行った。今回の参加者の皆さんとまた新たなことを学べるであろうことに対して期待感が募る。説明会以外には、いつものように創作活動と読書に時間を充てていた。予感として、日本からオランダに戻って来てしばらくすると、ここ最近注文した書籍の初読が終わり、そこからは再び学術書から離れて、創作活動に集中するのではないかと思った。そこでは画集を眺めたり、詩集を読んだりすることはあっても、専門書とは一端また距離を取るような気がする。仮に専門書を読むとしても今よりも時間は短くなり、また読んだとしても音楽理論書や作曲理論書のようなものになるだろう。

一昨日ハーグに住んでいる友人と話をしたことによって、ダンスだけではなく、詩に対しても関心を改めて持った。今手持ちの詩集をゆったりとした気分で読み返していきたいと思う。詩から何かを得ようというよりも、今まさに夕日の穏やかな光を全身に浴びながらそれを味わっているように、詩情を味わうようにしたい。日本に一時帰国した際には、八木重吉の詩集を購入しようと思っている。

詩を読むことに加えて、詩のような音楽を作っていこうという気持ちを新たにしたい。これはたびたび思っていることだが、何度もこれを自分に言い聞かせる。長編小説ではなく、無数の短詩のような曲を作っていくこと。そしてそれがいつか巨大な1つの人生物語になること。それが理想である。

詩のような曲を作っていくだけではなく、詩のような絵を描いていこうということも思った。毎日執筆している日記の1つ1つはどれも長いものではなく、それもまた詩のようなものである。全てを短詩として表現していくこと。それをこれからずっと継続していく。

---

夕方改めて、北欧の自然の近くで生活をしている自分を想像していた。自然に囲まれた家に住み、散歩がてら自然を味わう日々。1日の大半の時間を音楽と絵の創作に充て、自宅にいるその他の時間は詩集や画集を眺めて過ごす生活。そうした生活の実現が近づいて来ている。今も確かにそれに近い生活をしているが、今よりもより自然が感じられ、より一層静かな場所に身を置くこと。そうした環境の中で美しく慎ましい生活をしていこう。

ここ最近グレン・グールドが演奏するバッハのピアノ曲を聴いていたが、今この瞬間は日本の現代ピアノ音楽を聴いている。少し意識的に、各国の現代ピアノ音楽をこれから聴いていこうと思う。先日にはそのような意識が無意識的に芽生えていたのか、フィンランドの現代ピアノ音楽を聴いていた。現代に流れる音楽的時代精神を感じ、それを自分の肥やしにしていき、養われたものを創作活動に活かしていこうと思う。フローニンゲン:2020/9/7(月)19:44

#### 6207. 本日の読書の予定/今朝方の夢

時刻は午前7時を迎えた。つい先ほどまで小雨が降っていたが、今は止んだようである。空にはうっすらとした雲がかかっている、今朝は朝日を拝めそうにない。今日は1日を通して曇りとのことである。

先週、半年に1度の歯科検診を行い、今日は午後に歯のクリーニングをしてもらうことになっている。予約は午後3時20分からなので、3時に自宅を出発し、歩いてゆつくりと歯科医に向かおう。

起床直後に、自らのアウトプットが新たなインプットになるサイクルについて考えていた。今は日々、読書を通じてインプットを行うことに集中しているが、昨日の日記で書き留めていたように、今年の年末年始あたりには読書のペースが緩やかになるのではないかと予感がある。それはあくまで予感なので、その時になってみなければわからないが、自分としては今よりもさらに多くの時間を創作活動に充てたいと考えている。今はあえて、創作に対する飢えを生じさせるようなぐらいの時間と投入量しか充てていないというのが実情である。

ここ最近頭の中に絶えずある引っ越しを実際に行うことによって、それをきっかけにして何かが変わり始めるかもしれない。

---

今日は午後に1件ほどオンラインミーティングがあり、午前中の集中できる時間は創作活動と読書に充てていく。読書に関しては、ベルナルド・リーベフートの“Phases: The Spiritual Rhythms of Adult Life”をまず読み、そこからハーバート・マルクーゼの“One-Dimensional Man: Studies in the Ideology of Advanced Industrial Society”を読み進めていく。もし仮に余力があれば、3冊目としては“Deep Refrains: Music, Philosophy, and the Ineffable”を読み始めようと思う。リーベフートの書籍は、成人発達理論と霊性に関する書籍であり、久しぶりに成人発達理論と直接関係する書籍を読むように思う。

リーベフートはシュタイナー思想の泰斗でもあり、本書はシュタイナーの発達思想を学ぶ上でも非常に有益だろう。とりわけ自分の霊性がこれからどのようなプロセスで発達していくのかを、シュタイナーの発達思想の観点から理解を深めていき、今後の実践につなげていく。

今朝方は2つほど印象に残る夢を見ていたが、2つ目については随分と記憶が薄れてしまっている。取り急ぎ、1つ目の夢について振り返っておこう。

夢の中で私は、ドイツのミュンヘンにいた。私は、その街の強豪チームであり、先日欧州一に輝いたサッカーチームのバイエルン・ミュンヘンの視察に来ていた。バイエルン・ミュンヘンの施設はどれも見事であり、研修ルームも充実していた。これから研修ルームで、バイエルン・ミュンヘンのトレーニング方法やサッカー哲学について学ぶことになっていた。

いざ研修が始まってみると、なぜかゴールキーパーの2番手ぐらいの選手が講師を務め、彼が話し始めた。話を聞きながらノートを取ることをしていなかったところ、その講師のゴールキーパーが私のところにやって来てそれを責め始めた。私は話を聞くことに集中していて、ノートが本当に必要だと思ったものに関してはそれを書き留めようと思っていた。だがその講師は、とにかく手を動かしながら話を聞けという。

確かに、その講師が最後に述べたミュンヘンを代表する歴史上の人物とこのチームとの関係に関する話は面白いと思ったが、それ以外には書き留めるに値するようなことをまだ何も話していないと私は反論した。そこからさらに、惰性でノートを取ることの教育的弊害を、教育科学の実証研究の観点から指摘した。すると、その講師は口をつぐんだ。そこで夢の場面が変わった。

---

次の夢の場面もまた欧州のどこかの国だったことを覚えている。そこでも少しばかり自分の攻撃性が発揮されるようなことがあったように思う。その相手もまた日本人ではなく外国人だった。フローニンゲン:2020/9/8(火)07:22

#### 6208. ベルナルド・リーベフートの発達モデルと非合理的な成長希求

時刻は午後7時を迎えた。今日は1日を通して曇りであり、今も空には薄い雲が覆っている。そのため、今日は夕日を拝むことはできない。

明日は午前中から午後にかけて小雨が降るようであり、明後日以降に天気が回復する見通しだ。天気予報を見て驚いたが、来週の月曜日と火曜日は、最高気温が25度を超えるようであり、随分と暖かくなることが見込まれる。両日共に雲ひとつない快晴マークがついているので、この時は街の中心部に買い物に出かけるなり、暖かな陽気を味わいたいと思う。おそらく来週と月曜日と火曜日は、これから本格的に寒くなるフローニンゲンに向けての贈り物のような日となるだろう。

この時間になって今朝方の2つ目の夢の場面についてふと思い出した。そこでは外国人の教授と哲学談議をしており、その中で私が“idealism”という言葉述べたのだが、それは話題の中で出て来た現象を説明する上で正しくないと言われ、その他の主義が正しいとその教授は述べた。それに対して私もさらに意見を述べていたような場面があった。

今日はこれまでのところ2冊の書籍を読んだ。まず最初に、ベルナルド・リーベフートの“Phases: The Spiritual Rhythms of Adult Life”を読んだ。リーベフートはシュタイナーの発達理論に基づいて非常に興味深い発達モデルを提唱している。確かにそれは年齢を基準にしたものなのだが、各発達段階の特性と発達課題について非常に洞察の深い説明がなされており、色々と発見があった。

本書は今後も繰り返し読み、あえて年齢を基準にした発達モデルにしばらく触れていこうかと思う。リーベフートはその他にも、組織論に関する書籍も出版しており、それらの書籍もぜひ購入の検討をしようと思う。その後、ハーバート・マルクーゼの“One-Dimensional Man: Studies in the Ideology of Advanced Industrial Society”を読み終えた。こちらに関しても得るものが非常に多く、現代の病理や社会課題と向き合う上で優れた観点を提供してくれている。



---

批判理論を提唱した第一世代のアドルノやホルクハイマー以上に、マルクーゼの批判精神と社会変革への志向性に共感する。実践的な思想探究に関しては、マルクーゼ、バスター、シュタイナーの社会変革思想を引き続き参照していこうと思う。それらに加えて、経済や政治に関する現実的な知識についても手持ちの学術書を通じて学んでいく。それを通じて、具体的な現実課題の洗い出しと整理をし、それらの課題に対して上記の思想家の思想を適用していこう。

今日はその他にも、資源の限界性があるにもかかわらず、金融工学的な手法によって限界のない世界を作ってしまう、後者に毒される形でありえもしない無限成長を合理的に希求するというのは、実に非合理的だという点について考えていた。つまり現代社会における成長を取り巻く物語においては、合理性と非合理性の倒錯が起こっているのだ。

合理的に考えれば、無限成長など想定できないはずであり、それを求めることがいかに馬鹿げているかもわかるはずなのだ。しかし人間は不合理な生き物であり、尚且つ自我が永遠を求める不条理性を内包しているためか、非合理であるはずの無限成長を人間は求めてしまう。私たちは不条理性と不条理性を乗り越え、非合理的な無限成長を求めることから降りることはできるだろうか。フローニンゲン:2020/9/8(火)19:36

#### 6209. 本日の読書の予定/今朝方の夢

時刻は午前7時を迎えようとしている。今朝は少しばかり風が強い。街路樹たちが不規則に見えるような規則性に基づいて揺れている。不規則性の中にある規則性、そして規則性の中にある不規則性を理解すること。その大切さを思う。

今日の最高気温は19度、最低気温は10度であり、肌寒い1日になりそうだ。昨日の日記で書き留めていたように、来週の月曜日と火曜日は最高気温が25度を超え、暖かい日となる。それらの日々は秋に入った中休みのようなものだろうか。いったん秋に入りながらも、再び夏に戻ろうとするかのようになちよとした運動なのだと思う。火曜日に関しては28度まで気温が上がるようなので、随分と暖かい1日になるだろう。

今日もまた創作活動と読書に励んでいこうと思う。昨日もまた3冊の書籍がイギリスから届けられた。今日はまず、昨日から読み始めた“Deep Refrains: Music, Philosophy, and the Ineffable”の続きを読

---

む。残り半分を切っているので、午前中の早い段階で初読が読み終わるだろう。その次に読むのは、昨日届いた、アルゼンチン人のピアニスト・指揮者のダニエル・バレンボイムの“Everything is Connected: The Power of Music”にする。もし仮にこちらの書籍も読めたら、昨日その他に届いた“The Fundamental Social Law: Rudolf Steiner on the Work of the Individual and the Spirit of Community”か“Colors of the Soul: Physiological and Spiritual Qualities of Light and Dark”を読もうと思う。本日の最初の2冊が音楽関係の書籍なので、3冊目としては、シュタイナーの社会思想とコミュニティの運営精神について書かれた“The Fundamental Social Law: Rudolf Steiner on the Work of the Individual and the Spirit of Community”を読むのが良さそうだ。

それでは今朝も夢について振り返り、そこから1日の活動を始めていく。夢の中で私は、小学校時代に所属していたサッカーチームがよく試合で使っていたグラウンドにいた。ちょうど今から試合が行われることになっていて、私はスタメンで出場することになっていた。その時に、チームの中でフォワードを務める親友(HO)と少し作戦を練っていた。

私は彼の後ろの右ミッドフィルダーを務めていて、彼とどのように連携を取っていくのかを話し合っていた。本音で言えば彼と一緒にフォワードで組みたいという思いがあったり、フォワード出ないのであればボランチを務めたいと思っていたのだが、今のチーム事情ではそれは難しいと理解していた。しかし私は一応監督に話し合ってみることにした。交渉はまずまずうまくいき、まずは私が右のサイドバックを務め、そこからいつもの右ミッドフィルダーを務めた上で好きなポジションでプレーさせてもら得ることになった。

いざ試合が始まってみると、幾分精神が高鳴っていたのか、私は少し熱くなりすぎてしまい、審判に喰ってかかり始めた。仕舞いには、審判を殴打し、退場を告げられてからはなお一層のことその審判を殴りつけ、瀕死の状態にした。そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私は外国の穏やかな河川敷にいた。そこでは、外人たちが川に飛び込んで遊んでいたり、川辺を散歩している姿をよく見かけた。私も川辺を歩いていて、あるところで知り合いのアメリカ人たちが数人いたので、ちょうど私は下に水着を着ていたの、水着姿になって川に飛び込んだ。川はとても澄んでいて、川に入るととても涼しかった。

---

最後の夢の場面では、私は現在協働中のある方とリアルセミナーを開催することになっていた。そのセミナーには最初の夢に出てきた親友(HO)も加わるということで、3人での開催となった。私はまだ自宅にいて、そろそろセミナー開始の時間が迫ってきたので、自宅を出発することにした。その時に、スーパーに立ち寄ってバナナでも買ってから会場に向かおうと思った。そのため、財布を持っていこうとしたのだが、財布ではなく、フィルムケースに小銭を入れて、それを持っていくことにした。大量の小銭を持って行っても仕方ないので、バナナを買って少しお釣りがあがる程度の余裕を持たせた小銭を入れた。

ところが、時計を確認すると、スーパーに立ち寄る余裕がなさそうだったので、少し慌てて自宅を出発し、セミナー会場に向かった。するともう私の体はセミナー会場にあった。セミナー開始の時刻になったが、他の2人の開催者以外誰も会場に来なかった。私たち3人は、今回は日時の設定が悪かったということ話し、その場で解散することにした。フローニンゲン:2020/9/9(水)07:13

#### 6210. 作曲実践とダンスの組み合わせ

時刻は正午を迎えようとしている。先ほど少しばかり小雨が降っていたが、もうそれは止み、午後からは曇りの天気が続くようだ。気分転換がてら夕方に近所のスーパーに行つてこようと思う。

気分転換という観点で言えば、今日から新たな習慣として、作曲実践とダンスを組み合わせ始めた。曲の原型モデルを再生する時や、自分が作った曲を聴き直す時にスッと立ち上がって踊りを踊るようにしてみると、これが実に良い気分転換になることに気づいた。それは気分転換だけではなく、心身統合運動としての効能もあるように思える。音楽に合わせて踊っている最中においては思考を手放し、身体感覚そのものと意識が一体化していることを感じる。

音の流れと運動に合わせて、体が動きたい方向に体を動かすことによって、治癒の作用が生じていることにも気づく。これは是非とも習慣にしていこう。新たな習慣を独立した形で取り入れるようとすると、それを習慣として定着させることがなかなか難しい場合が多々あるが、既存の実践と組み合わせることによって、習慣化のハードルは下がるだろう。また何よりも、踊りを踊ることの心地良さを実感しており、踊ることによって快楽物質のエンドルフィンが流れていることもわかる。さらには、踊りを踊った後に再び創作活動や読書に取り掛かってみると、集中力が高まっていることにも気づき、

---

脳にもとても良い影響があるようだ。目を瞑りながら踊れば、目を休めることもできるという良さもある。

今日もまだ作曲実践をしていこうと思っているので、原型モデルを再生する時や自分が作った曲を聴いている時には常に踊りを踊ろうと思う。そうすれば、それだけで毎日20分以上踊っていることになり、良い身体運動になる。音と踊りのつながりについても体験を通じて理解を深めていこう。作曲をする楽しみがまた増え、踊る楽しみもこれからどんどん増していくだろう。

先ほどふと、一時帰国するまでは、居住許可証の受け取りのため以外にはフローニンゲンの外に出ないことに決めた。また、年内はもう仕事関係以外の用事は入れないようにしようと思った。自分の取り組みにとにかく集中したいためである。

午前中に、ダニエル・バレンボイムの書籍を読む中で、改めてピアノの旧約聖書とも言われるバッハの『平均律クラヴィーア曲集』と、新約聖書とも言われるベートーヴェンのピアノソナタ曲集について考えていた。それら新旧2つの聖書のような学習とこれからゆっくり向き合っていこうと思う。それらをもとに曲の原型モデルを作っていき、そこから作曲実践を重ねていく。その際には、上述のように踊りの実践も絡めていく。多角的な体験を通じて音楽理解と作曲技術を深めていこう。フローニンゲン:2020/9/9(水)12:06

#### 6211. シャドーワーク・瞑想実践としての創作活動/フローニンゲン内での引っ越しについて

時刻は午後7時半を迎えようとしている。今日は午後から夕方にかけて小雨が降っていたが、今は小雨が止み、夕日が見える。昨日は夕日の姿を拝むことができなかった分、夕日の輝きが内側に染み込んでいく。

現代を覆う霊的癌 (spiritual cancers) の治癒について夕方に考えていた。社会は人類共同体にとって器としての身体のようなものであるから、その治癒をすることは共同体の一員として果たすべき1つの責務であろう。

創作活動を通じたシャドーワークと瞑想実践が続く日々。創作活動は、シャドーと向き合い、それを癒すセラピーであり、同時に霊性を涵養する瞑想実践でもある。単に坐す瞑想よりも、創作活動を

---

通じての方が何倍もの治癒的・霊的涵養効果があるように実感される。創作活動を通じて開示される自己の諸々の側面を把握し、それを治癒していく。自分が生み出す創作物は、自己の側面を映し出すだけでなく、社会の様々な側面も映し出している。治癒すべき対象を創作物を通して把握し、それらに関与していく。

正午前に、再度引っ越し先候補となる物件を検索していた。この間使っていたウェブサイト以外にもいくつか居住用物件を探すウェブサイトがあり、5つぐらいを使って調べてみたところ、先日のウェブサイトにはないような良さそうな物件がいくつかあった。必須のものではないが、少しばかりこだわらるなら、ジャグジー付きの浴槽がある家に住みたいと思う。実際にそうした物件をいくつか見つけたことによって、そのような思いが湧いてきた。

シベリウスのようにサウナ付きの家に住むのはフィンランドに居住してからでよく、オランダにいる間はゆったりとした浴槽に浸かることに加え、ジャグジーがあればより一層日々リラックスできるだろう。ここから本格的にフローニンゲン内での引っ越しに向けて少しずつ準備を進めていこうと思う。その他の都市についても調べてみたが、他の都市の物件を見学に行くのがとても面倒なので、やはりフローニンゲン内での引っ越しにしようと思う。今年の秋の一時帰国がなければこの秋にでも引っ越したいところだが、日本への一時帰国があるので、引っ越しの実現は年明けにしようかと思う。

調べてみたところ、良さそうな引っ越し業者をフローニンゲン内で見つけ、そこは365日引っ越しを受け付けているようなので、ここにお世話になろうかと思う。これまで国をまたぐような引っ越しはいつもヤマト運輸さんにお世話になっていたが、今回はオランダ国内の引っ越しなので、オランダの引っ越し業者を試してみたい。

候補としている引っ越し業者から段ボールがもらえない可能性もあるので、15箱ぐらいの大きい段ボールのセットを他の引越し業者のウェブサイトから購入しようと思う。日本への一時帰国を終えてオランダに戻ってきてからは、本格的に物件を探し、良さそうな物件については実際に見学させてもらおう。今の家の契約と新しい家の契約タイミングが完全に合致するかどうか分からないので、そのあたりは不動産屋に確認したり、交渉したりしよう。特に、家賃の日割りや契約満了日の当日退去ができるのかなどを確認したい。まさかフローニンゲン内で引っ越しをするとは思っていなかったが、少なくともあと4年はオランダで生活をしようと思っていたので、今回の引っ越しによって、フロー



---

ニンゲン生活を再スタートさせられるような気がする。それもまた1つの死と再生の体験になるだろう。フローニンゲン:2020/9/9(水)19:45

## 6212. 作曲に関する顕教と密教

時刻は午前7時を迎えた。とても静かな朝の世界が広がっている。空には雲がある部分とない部分が均等にわかれている。遠くの雲に朝日が当たり、それが薄オレンジ色に輝いている。

ここ最近注文した75冊の書籍を次々に読んでいて、1日に2~3冊のペースで書物を読んでいく。そうすると、大量に書籍が届けられた時には机の上が積読状態にあったのだが、いつの間にかもう大して書籍が積まれていないことに気づく。あと手元に残っているのは、音楽美学に関する書籍や、ゲオルク・ジンメルGeorg Simmelの貨幣論に関する書籍、そしてDK出版の各種の図鑑のような解説書である。

昨日、今日はシュタイナーの色彩論を発展させた“Colors of the Soul: Physiological and Spiritual Qualities of Light and Dark”を読もうと思う。本書は自分にとって、絵画の創作のみに役立つのではなく、作曲の際に色彩感覚を出す時にも役に立つだろう。

著者のデニス・クロセクはその他にもシュタイナーの思想や人智学に関する興味深い書籍を出版している。今のところ、“The Seer’s Handbook: A Guide to Higher Perception” “Sacred Agriculture: The Alchemy of Biodynamics” “Esoteric Physiology: Consciousness and Disease”の3冊を新たに購入予定の文献リストの中に入れた。日本から戻ってきてから、11月の中旬にまた書籍を一括注文しようと考えているので、その時にそれらの書籍を購入するかどうかを再度検討しようと思う。

昨日、エドワード・サイードの書籍を読んでいた時に、バッハについての印象的な記述があった。バッハは既存の作曲技法を、同時代の作曲家が思いもつかないような形で洗練させて曲を作ったということが書かれていた。バッハの創造性は、既存の様々な作曲技法を誰にも思いもつかないような高度な形に洗練させる形で発揮された。そのことを知ってから、すでに現存する曲や技法に範を求め、そこに自分なりの工夫を施していこうと改めて思った。旧約聖書としてのバッハの『平均律クラヴィーア曲集』を大いに参考にしたい。

---

先日購入した音楽美学に関する書籍を読んだ後は、顕教としての音楽理論や作曲理論を徹底的に学習しながらも、それ以上に実践を通じて音楽創造の密教を体得していこうと思う。せっかく顕教として書かれたものがあるのだから、それらは網羅的かつ徹底的に学び、それでいて作曲は最後は密教的な技術体系であるから、実践を通じてそれらを学んでいく。理論書からの学びも多いが、最も学びが多いのは実際の楽譜を見ることであり、実際に曲を作ることである。写譜と作曲を重視して、これからの探究と精進を進めていこう。フローニンゲン:2020/9/10(木)07:29

### 6213. 今朝方の夢

時刻は午前7時半を迎えた。今、朝日が燦々と輝いている。

ちょうど先ほど、書斎の窓から真っ直ぐの方向に虹が見えた。まさに先日虹を見た場所と同じようなところに見事な虹ができていた。先日よりも消えるのが早かったが、しばらくぼんやりと虹を眺めていた。

それでは今朝方の夢について振り返り、今日も創作活動と読書に励んでいこうと思う。それらが相互作用をなす形で固有の深まりを実現させている姿を見る。夢の中で私は、高校1年生の時に同じクラスになった友人(TN)と話をしていた。彼は地元の国立大学に入学した後、成績がとても優秀だったこともあり、京都大学に編入したそうだった。

大学での生活について話を聞くと、彼は編入先の大学でも勉強に励んでいることが伝わってきた。話の流れの中で、私は京都大学の野球部の先生に交渉しに行くことになった。というのも、なぜか自分の高校から野球部に入部することが拒絶されてしまっていたからである。

大学に到着し、先生を探したところ、先生は野球場ではなく、体育館の中にいた。先生はどうやらオーケストラの顧問もしているようだった。体育館に入った時、今からまさに演奏が始まるころだったので、私は体育館の後ろに並べられていた椅子の1つに腰掛けた。先生は私の存在に気づいたようであり、「あとでそちらに向かう」というような意味を込めたサインを私に送った。

---

気がつくと私はもう体育館におらず、駅のプラットホームにいた。そこはとても長閑な駅であり、プラットホームの背後には山々が見えた。プラットホームの数は3つあり、私は一番山側のプラットホームで待っていた。すると、先ほど話をしていた高校時代の友人と、小中高時代の女性友達(YY)が私の近くにやってきて、そこからは3人で話をした。

最後の夢の場面は、旅館のような場所の個室だった。そこで私は手料理を作り、小中高時代の親友(HO)と小学校4年生の時にお世話になっていた担任の先生に料理を振る舞うことになっていた。パスタ風のサラダが最初に完成し、まずは先生に味見をしてもらおうと思った。私の方でパスタの麺とニンジンを皿に盛り、ニンジンの上にトマトやその他の野菜を乗せて行った。いざ先生が一口サラダを口に運ぶと、先生は「美味しい！」と声を上げた。その言葉を聞いて私は嬉しさと安堵の気持ちに包まれた。そこからは親友にもサラダを食べてもらおうと思い、彼の分を皿に盛り始めた。今朝方はそのような夢を見ていた。

実際のところは、その友人と一緒に絵画の制作か何かを行っている場面もあったように思う。参考にできそうな絵がたくさん地面に置かれていて、そこから1つ選んで絵を描いていくような場面があったことを覚えている。友人も私も、自然をテーマにした絵を選んでいったように思う。彼はそれを具象的に描き、私は抽象的に描こうとしていた。フローニンゲン:2020/9/10(木)07:58

#### 6214. 創造と居場所/「色々」と多様性/畏敬の念とゴールデンシャドー

—もはや母国を失った者にとって、書くことは生きるための場所となる—テオドール・アドルノ

時刻は午後7時を迎えた。今、穏やかな夕方の世界が広がっている。

今日もまた、日記を書き、音楽や絵を作って読書をするような1日であった。創作をすることによって自分の生きる場所が生まれ、創作に次ぐ創作によって、その土壌が豊かになっていると感じる。

午前中にふと、「色々」という日本語の表現について立ち止まって考えていた。その言葉から、日本人は多種多様な色を大事にする精神を内在的に持ち合わせている可能性があるのではないかと考えていた。そうであれば、それを現代の社会生活の中に適切な仕方で反映してほしいと思う。多様性を抑圧するのでもなく、多様性をお題目のように唱えるのでもなく、真の意味での多様性の尊

---

重。日本人が本来持つ多様な色彩を理解する感覚や感性が育まれれば、真の意味で多様性が尊重される社会が来るだろうか。

昼食をいつものように軽く摂った後、読書をして仮眠を取った。いつも感じることなのだが、仮眠によって午前中の学習や実践が脳内に刻み込まれている感覚がする。端的には、仮眠による脳の休息を通じて、シナプスが增加し、シナプスが強化されているようなのだ。ここにも脳を休めることの効能を見ることができる。とりわけ仮眠はその作用が強いのだろう。

夕方の今この瞬間には、空が雲で覆われており、今日は夕日を拝むことができない。空が全体としてある感覚を引き起こしてくる。音楽作品や絵画作品の背後には、絶えず巨大な美的ゲシュタルトが立ち現れるということについて考えていた。音そのものや絵そのものに着目しては、そうした美的ゲシュタルトを知覚することはできない。芸術作品の背後には、絶えず巨大な美的ゲシュタルトが存在しているということ。しかもそれは、自分の美的感覚の発達に応じて質的に変化を遂げていくということ。それを心に留めておこう。

友人のブログを読みながら、畏敬の念とゴールデンシャドーについて考えていた。誰かに対して畏敬の念を抱くというのはゴールデンシャドーの投影としての側面があり、そうしたシャドーの投影は、私達を発達に導いていく可能性を内包している。

強く心を動かしてくれる偉人たちの存在に感謝の念を捧げながら、今日もまた創作活動と読書に励んでいた。本日届いた“Rethinking Economics: Lectures and Seminars on World Economics”の著者であるルドルフ・シュタイナーは、私に畏敬の念を頂かせてくれる。今夜からこの書籍をゆっくりと読み始めよう。フローニンゲン:2020/9/10(木) 19:23

### 6215. シュタイナーの貨幣論/今朝方の夢

時刻は午前7時を迎えた。今朝は少し空が曇っていて、朝日を拝むことができていない。幸いにも今日の天気は晴れとのことなので、ここから少しずつ雲が晴れていくことが期待される。今日の最高気温は18度、最低気温は9度とのことであり、もう随分と肌寒くなったものだ。朝日が昇る時間もすっかりと遅くなり、来月末にサマータイムが終わるのだが、それはもう少し早く終わってもいいのではと思ってしまうぐらいだ。

---

昨夜から、シュタイナーが経済理論を解説した“Rethinking Economics: Lectures and Seminars on World Economics”という書籍を読み始めた。あれよあれよというまに、気がつけば半分以上を昨夜の段階で読み進めていた。それほどまでに本書の内容は興味深く、とりわけシュタイナーの貨幣論の洞察の深さに感銘を受けるものがあった。今日も本書の続きを読み、そのあとには音楽美学に関する“Music as an Art”という書籍を読み進める。ゲオルク・ジンメルの“The Philosophy of Money”は明日から読み始めようと思う。

シュタイナーの貨幣論の中で、貨幣に霊性が宿り、霊性が貨幣を通じて活動と交換がなされるという発想が興味深かった。霊性のアクションとしての貨幣とその循環を想定した経済論について、これから理解を深めていこう。明日から読み始めるジンメルの貨幣論と合わせて、両者の貨幣論は今後も繰り返し参照していくことになるだろう。経済に関するテーマは、これから何年もかけてゆっくりと探究を深めていこうと思う。シュタイナーも経済思想を結実させるまでに30年の探究が必要だったことを絶えず念頭に置いておこう。

今朝方は、少しばかり無意識の世界が穏やかだった。夢を見ていたことは確かだが、その記憶が曖昧になりつつある。夢の中で私は、両親が現在住んでいる実家のリビングにいて、そこで愛犬と戯れていた。愛犬は確か今度15歳になるのだが、まだまだ若々しく、元気があった。

次の夢の場面では、私はどこかの国のリゾート地にいた。おそらくそこは欧州のどこかであり、海が近い感覚があった。そこで私は寛いでいたのだが、ひょんなことから宿泊先のホテルのセミナールームで講演をすることになった。講演の中で、身体心理学の話題を取り上げ、全ての活動の根幹に身体と身体エネルギーがあることを説明した。今朝方の夢で覚えているのはそのぐらいである。目覚めた瞬間にはもう少し覚えていることがあったのだが、それは強固な記憶の形を取らず、どこかに消え去ってしまった。それでは今日もまた創作活動と読書に集中する充実した1日にしたい。  
フローニンゲン:2020/9/11(金)07:29

#### 6216. 身体感覚と身体意識の拡張に向けて:シュタイナーとゲーテの色彩論

時刻は午後7時を迎えた。今、オレンジ色に輝く夕日と赤紫色に輝く夕焼け空を眺めている。昨日はこうした夕日と夕焼け空を拝むことができなかったので、この美しさが身に沁みる。美を感じるに



---

は美に対して満腹であってはならず、むしろ適度な空腹感、すなわち飢えが必要なのもかもしれない。それは創作活動に対してもそうなのだろう。

今の自分の日々の創作活動の投入量は、飢えを満たすどころか、より渴望感を引き起こす程度のものである。そうしたことを考えると、さらに創作活動への投入量を増やしてもいいかと思うのだが、あえてそれを留め、渴望感の中で創作活動に従事するようにしている。創作への飢えは留まるところを知らない。

そう言えば、今朝はいつも以上に小鳥たちが鳴き声を上げていた。このところの朝の世界はとても静かだったのだが、小鳥たちも何らかの変化を体験することによって再び鳴き声を上げ始めたのかもしれない。明日の朝もまた彼らの鳴き声を聞きたいものである。

作曲や絵画の創作において、身体感覚を拡張させていくイメージを持つことをより意識し始めた。どんな領域においても、高次元の世界に到達するためには、身体を根幹に据え、そこから身体感覚の拡張と質的変容が求められる。カート・フィッシャーのダイナミックスキル理論の観点からも、それは明らかである。いかなる学習も実践も、それがいかに純粹に知的な活動に見えたとしても、脳を活用する以上はその根幹に身体があり、その高度化には身体意識の拡張が必要となる。

そのようなことを考えながら、作曲技術を身体意識の拡張を通じて深めていくために、曲の原型モデルを再生する都度ダンスを踊り、曲を作ってそれを聴き直す都度踊るというのは、作曲に紐づいた身体感覚と身体意識を育む上で有益そうだと思った。これは数日前に考えついたことであり、今日もまたそれを必ず行っていて、習慣になりつつあることは好ましい。

色彩についての理解を深めていくに際して、シュタイナーとゲーテの色彩論の学習をしていこう。手元には、シュタイナーの色彩論に関する書籍はあるが、ゲーテの色彩論に関するものはない。もちろん、シュタイナーの色彩論はゲーテの色彩論を参考に行っているため、シュタイナーの色彩論だけを学んでいくというのも方法だが、原点に当たるゲーテの色彩論も学習していきたい。その学習の成果を、作曲と絵画の創作の双方に活用していく。

毎朝、バッハのコラールを参考にして作曲実践を始めているのだが、今日からは1日の終わりの作曲実践に際してもバッハのコラールを参考に行ってみることにした。1日の始まりにコラールを作ること

---

---

によって、小さな喜びと感謝の念を持って1日を始めることができ、1日の最後にコラールの曲を作ることによって、気持ちが落ち着く形で1日を終わることができているように思う。ここからしばらくは、バッハのコラールで始まり、バッハのコラールで終わるというリズムを採用してみよう。フローニンゲン:2020/9/11(金)19:29

### 6217. 学習と実践の螺旋プロセス

時刻は午後7時半を迎えた。西の空に美しく燦然と輝く夕日を拝むことができている。

今日は、シュタイナーの経済思想に関する書籍と音楽美学に関する書籍の合計2冊を読み終えた。音楽美学に関する書籍はさらにもう1冊を午後から読み始めていて、それについては今夜読み終わる予定だ。明日はジンメルの商品論に関する書籍を読もうと思う。本日読み終えたシュタイナーの経済思想に関する書籍は秀逸であり、今後少なくとも5回ぐらいは読み返すことになるだろう。

今回は初読だったので、全体を把握するような読み方をして、あまり細部に入らなかった。初めて訪れる土地を、誰も一步一步足元を見ながら歩く人がいないように、書籍の読解においても全体の内容を把握し、土地勘を養うことが大切になる。一步一步、つまり一言一句最初から最後まで丁寧に読もうとすると、必ずどこかで迷子になり、結局はどこかで挫折することになるだろう。それが学術書であれば尚更だ。初読から一言一句読もうとするような読み方は、街の全体を把握しないまま知らない道の石畳を一つ一つ眺めていくようなものである。それでは日が暮れてしまう。

あれよあれよという間に、75冊注文した書籍のほとんどを読み終えてしまった。予定では、日本に一時帰国してオランダに戻ってきてからそれらの初読が完了すると思っていたのだが、日本に帰る1ヶ月前にもう初読が終わりそうなのだ。今手元にある大方の学術書の初読は来週の初旬に終わるだろう。そこからは、DK出版の様々な分野に関する図鑑を10冊ほど読んでいく。それは文字通り図鑑であるが、それについても初読時には同じような読み方をしていく。

このDK出版の図鑑シリーズは図解入りでとてもわかりやすく、日本から戻ってきたらクラシック音楽に関する2冊の図鑑と、絵画芸術に関する4冊の図鑑を同出版社から購入しようと思う。それらの図鑑に関しては、すでに購入予定の文献リストに入れておいた。

---

---

明日からの読書においても、同じトピックやテーマを何度も循環させることで、徐々に理解を深めていくプロセスを大切にしたい。とにかく接触回数を増やし、少しずつ理解を深めていく。成長や発達が螺旋を描きながら実現していくのと同じように、学習や実践の深度もまた螺旋を描いていくのだ。螺旋を走らせることが大事であり、そのためには繰り返しが大切になる。1巡目と2巡目においては、もう自分は同じ自分ではないのだから、得られる量も質も変わってくるだろう。

本日読み進めていたシュタイナーの経済思想について改めて考えていると、先日読み進めていたハーマン・デイリーが提唱した生態経済学と親和性があることに気づいた。ここからはシュタイナーの経済思想とデイリーの経済思想を関連付けながら往復的に学習を進め、そしてそこに明日から読むジンメルの商品論の考え方を取り入れていこうと思う。フローニンゲン:2020/9/11(金)19:43

### 6218. ヘレナ・ブラヴァツキーの影響と霊的知覚能力

時刻は午前5時を迎えた。今、辺りは真っ暗であり、小鳥たちの鳴き声も聞こえてこない。

朝日が昇り始めるのが遅くなり、あと1時間半ほど待たなければ朝日の姿を拝むことができないだろう。今日の最高気温は18度、最低気温は9度と肌寒いが、来週の月火水と25度を超えるような温かい日になることは何よりである。秋が一気に深まっていくのではなく、秋の中休みといったところだろうか。

昨夜、不動産屋に賃貸契約に関する確認のメールのドラフトを作った。それを明日の夜にでも送り、早ければ今年の冬に予定している引っ越しに備えたい。日本に一時帰国している最中にもインターネットを通じて物件を本格的に探し始めようと思う。早ければ12月から新しい家に引っ越したい。日本からオランダに戻ってきてからは、何軒かの目星の物件を見学したいと思う。それによって、これまで見落としていたフローニンゲンの街の姿を知ることになるだろう。引っ越しをすることによって、フローニンゲンの街をさらによく知ることができればと思う。

昨日、シュタイナーに多大な影響を与えたヘレナ・ブラヴァツキーに関する学者のプレゼンテーション動画を視聴していた。その中で、ブラヴァツキーの思想がカンディンスキーとモンドリアンに多大な影響を与えていたことを初めて知った。この2人の画家に対しては以前から関心があっただけに、

---

2人がブラヴァツキーの神智学思想に影響を受けていたことを知って、ますます興味と共感の念が湧いた。シュタイナーの思想がカンディンスキーに影響を与えていたことは知っていたのだが、まさかブラヴァツキーもカンディンスキーに影響を与えていたとは。

ブラヴァツキーの2巻にわたる代表作“The Secret Doctrine”が手元にあるが、本書はブラヴァツキーの霊的知覚能力の産物だということが、昨日の動画から改めてわかった。その動画を見なくても、本書を読めばそれにすぐに気づくことができるぐらいに、本書は何か異様な力を放っている。

ブラヴァツキーは本書の執筆にあたり、たくさんの書物を読んだわけでも、誰かから教を乞うたわけでもない。そうではなく、ブラヴァツキーは瞑想による霊的知覚によって得られた叡智を言葉の形にしていったのである。霊的知覚の産物としての本書は、それゆえに異様な雰囲気を出している。

ブラヴァツキーのような形で、つまり霊的知覚で得られた洞察を創作活動を通じて形にしていくことを意識していきたいと思う。もちろん、顕教としての叡智を書物から今後も得たいと思うが、最終的には霊的知覚を通じて、固有の存在である自己に降ってきた叡智を自分なりの方法で形にしていく。それが自分という固有の人間に託された役割なのだと思う。フローニンゲン:2020/9/12(土)

05:31

## 6219. 今朝方の夢

時刻は午前5時半を迎えた。今朝は午前4時半過ぎに起床したこともあり、今日は創作活動と読書に充てる時間が十分にあるだろう。今日の午後1時からオンラインミーティングが1件あるだけなので、それ以外の時間は全て自分の取り組みに充てたいと思う。

今朝方は少しばかり印象的な夢を見ていた。夢の中で私は、大きなデパートにいた。デパートの雰囲気と客の様子から、そこは日本のデパートだった。直感的に、それは都心部にあるものではなく、郊外にあるようなデパートだった。とても綺麗で立派なデパートなのだが、どういうわけかほとんど客がいなかった。

私はまず、家庭製品が売られているフロアに行き、そこでコップを購入しようと思った。ガラスコップではなく、コーヒーを飲むためのコップを1つ選んで購入することにした。私はそれを持ったまま、す

---

ぐにレジに向かうのではなく、他のフロアも見ていこうと思った。ちょうど一緒に買い物をしていた母が遠くの方に見え、お互いに目が合ったので、私は「下にいるよ」という合図を母にして、エスカレーターで下に向かった。

1つ下の階は食品を扱っていたのだが、そこには客がほとんど誰もいなかった。そこからさらに下の階に降りて、1階まで降りた。私はそこを出発地点にして、今度はそこからまた上の階に上がっていくことにし、1つ1つのフロアをゆっくり見て回ろうと思った。

すると、私から少し離れた後ろに、大学時代の女性友達がいることに気づいた。彼女も私のことに気づいたようであり、早足でこちらに向かって来始めた。私は彼女に気づいていないフリをして、何食わぬ顔でエスカレーターに乗って上の階に向かって行った。私の前方にはおばさんたちが数名いて、彼女たちはそこで立ち止まっていたので、私もその場で立ち止まらざるを得なかった。後ろからやって来る彼女から逃げようと思っていたわけではないが、私はエスカレーターを歩きながら上に向かいたいと思っていた。その場で立ち往生する羽目になったので、彼女はすぐに私に追いついた。彼女は、私が彼女のことを避けようとしていると受け取ったようであり、少し寂しそうな表情をして声を掛けて来た。そこから私たちは少しばかり話をし、最上階のレストランのあるフロアに到着した時に別れた。

最上階のフロアを歩いていると、小中学校時代の友人(TK)に出会い、彼にどのレストランに入るのかを尋ねた。彼はビュッフェ形式のレストランを私に勧めてくれた。せっかくなので、私はそのレストランに入ることにした。その日のデパートの客の数からすると、このレストランは盛況であるように思えた。私は、新鮮な温野菜をたくさん皿に盛り、もう1つの皿に数種類のチーズを盛り、その上にスクランブルエッグを乗せた。

近くに味噌汁も置かれていたので、まずは皿を自分の席において、それから味噌汁を取りに行こうと思った。いざ味噌汁が置かれている場所に行くと、大学時代から付き合いのあるドイツ人の友人がそこにいて、偶然の再会を驚いた。彼はもう40歳近くになっており、子供が3人いることが信じられなかった。それぐらいに彼はまだ若々しく元気があった。フローニンゲン:2020/9/12(土)05:53



---

## 6220. 身体に宿る叡智の声に耳を傾けて

—いかなる偉大な哲学よりも、自分の身体により偉大な叡智が存在している—ニーチェ

時刻は午後7時を迎えた。今、土曜日の穏やかな夕暮れ空が広がっている。

今朝は午前4時半過ぎに起床したこともあり、創作活動と読書が随分とはかどった。午後からは1件ほどオンラインミーティングがあり、その後、一時帰国に関して色々と雑事をこなしていた。端的には、先日フライト変更をしたばかりのフィンエアーが、結局運休状態が11月まで続くことに伴い、フライトの予約変更をする必要があった。それはまだ完了しておらず、今日ほどの航空会社のどの日のフライトにするかを改めて考えていた。

今のところ、KLMがすでに無事に関空まで飛んでいるようなので、今回はKLMを利用しようかと思う。KLMであれば、アムステルダムのスキポール空港から乗り換えなしで関空に到着できてしまう。KLMのマイレージプログラムに参加していることもあり、今回はKLMを活用させてもらうかと思う。ヘルシンキを経由できなかったことは残念だが、乗り換えなしで日本に到着できてしまうことは確かに便利だ。

スキポール空港を出発する時間は午後2時半ごろであるから、先日まで予約していたフライトよりもさらに余裕がある。日本に到着する時間は現地の午前9時頃であるから変わりはない。近日中にフライトの予約を確定させようと思う。

自己を超えた大いなる存在に思いを馳せることによって、自己の可能性を知りながらも、同時に自己の矮小さを知ることの大切さについて考えていた。こうした謙虚さを喚起させてくれる超越的存在が必要であり、そしてそれを認識する力とそれを敬う心を育むことも大切だ。この点は道徳や倫理に関する問題とも絡んでくるように思う。現代人が道徳観や倫理観を失いつつあるのは、ひょっとすると畏敬の念をもたらす存在の不在というのも1つの要因として考えられるかもしれない。

ここ最近では、自分の身体の声を聞くことをより意識している。曲の原型モデルを再生する際にはダンスを踊り、自分が作った曲を聴き直すときにも音楽に合わせて踊ることが習慣となり、それは小さな実践だが、それによって身体感覚や身体エネルギーに肯定的な変化が芽生えているように思う。

---

また、就寝前のヨガをこれまでよりも念入りに行うことによって入眠と睡眠の質がさらに上がり、それがまた身体の調子の良さを生み出している。ニーチェが指摘しているように、身体に宿る偉大な叡智の声に耳を傾けていこう。そのメッセージを絶えず受け取り、それによって自分の日々の行動を検証していくことを忘れないようにしたい。身体のリズムを感じ、それと調和を成して明日からの日々も生きていこう。フローニンゲン:2020/9/12(土) 19:29